

地域行事の継承を目的とした教材開発 ～沖縄県南城市大里字古堅区の豊年祭「古堅のミーミンメー」～

新里香乃、加藤真由美（岐阜女子大学）

地域行事の継承は全国的にも大きな課題である。文部科学省は改正された教育基本法と新しい学習指導要領において伝統や文化に関する教育の充実を図っているが、地域の少子化や人口減少がこの課題解決を困難にしている。解決には、学校教育だけでなく、地域における教育力の向上が必須である。以下に地域行事の継承を目的とした教材開発と地域における活用について示す。

1. 古堅区の豊年祭「古堅のミーミンメー」

古堅区は沖縄県南部に位置する人口約300名の小規模地区である。古堅区も少子化・人口減少が進み、区の豊年祭に参加する小学生も年々減少。以前に比べて祭事の規模も小さくなり、将来の祭事の継承が危惧されている。

豊年祭に参加する子どもたちが、その歴史や文化的背景、継承してきた地域の人々の思い・願いなどを知る機会ほとんどない。そこで、古堅区の方々にご協力いただき、将来、祭事を担う小学生低学年を対象にそれらを学ぶことができる教材の開発を行った。



図1 祭事の神様 ミルク様

2. 地域行事の継承を目的とした教材の実際

(1) [教材1] 紙芝居

めあて 「古堅のミーミンメー」の歴史や文化的背景、継承してきた地域の人々の思い・願いを知ろう。

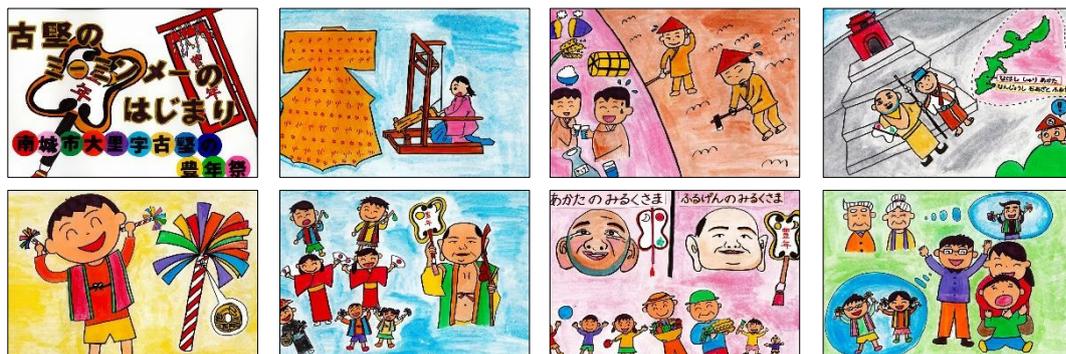


図2 8枚にまとめた紙芝居

